

■上篠路中学校の実践

(1) 研究内容 自己肯定感や自己有用感を育成する取組

～ピアサポートの手法を活用、命を大切にする講演会～

(2) 学習活動を通して育てたい力

不登校やいじめ等に対しては、児童生徒間の人間関係が起因していることが多い。これらを改善するため、自我が形成される時期を過ごす中学校生活において、自己肯定感や自己有用感を持ち、行動できる生徒を育成する。

(3) 実践の内容

【実践①】「ピアサポートを活用した道徳～全学年～」

○ねらい ・ピアサポートの目的や意義について理解し、学校生活における日常的な場面において、互いに思いやり、助け合い、支え合える人間関係について考えを深める。

○学習内容 1学年「2種類のコミュニケーション」

2学年「相手の思いをくみとる」

3学年「聴き方上手は生き方上手」

【実践②】「命を大切にする講演会」11月28日 6校時 全校集会

○ねらい ・命の尊さを理解し、かけがえのない自他の命を尊重する。

・自己の実現への「夢」の大切さを知る。

○演題 「みんなの笑顔にあいたくて」

～きっと叶う夢のために たのしくがんばる だからあきらめないで～

(4) 成果と課題

- ① 成果 ・自己有用感や自尊感情を持つ良い機会となっている。ピアサポートを意識し、全校で実践し研修を深めることができた。
・講演会では、講師の方が自分の生き方をもとにして講演されたので、自己肯定感の大切さや自己実現への考え方を知ることができた。
- ② 課題 ・ピアサポートを意識した継続した行動や自己有用感を育成するための支援として、プログラムの実践や道徳の年間計画に「ピアサポート道徳」を数時間設定することにより、生徒への定着を図っていく。